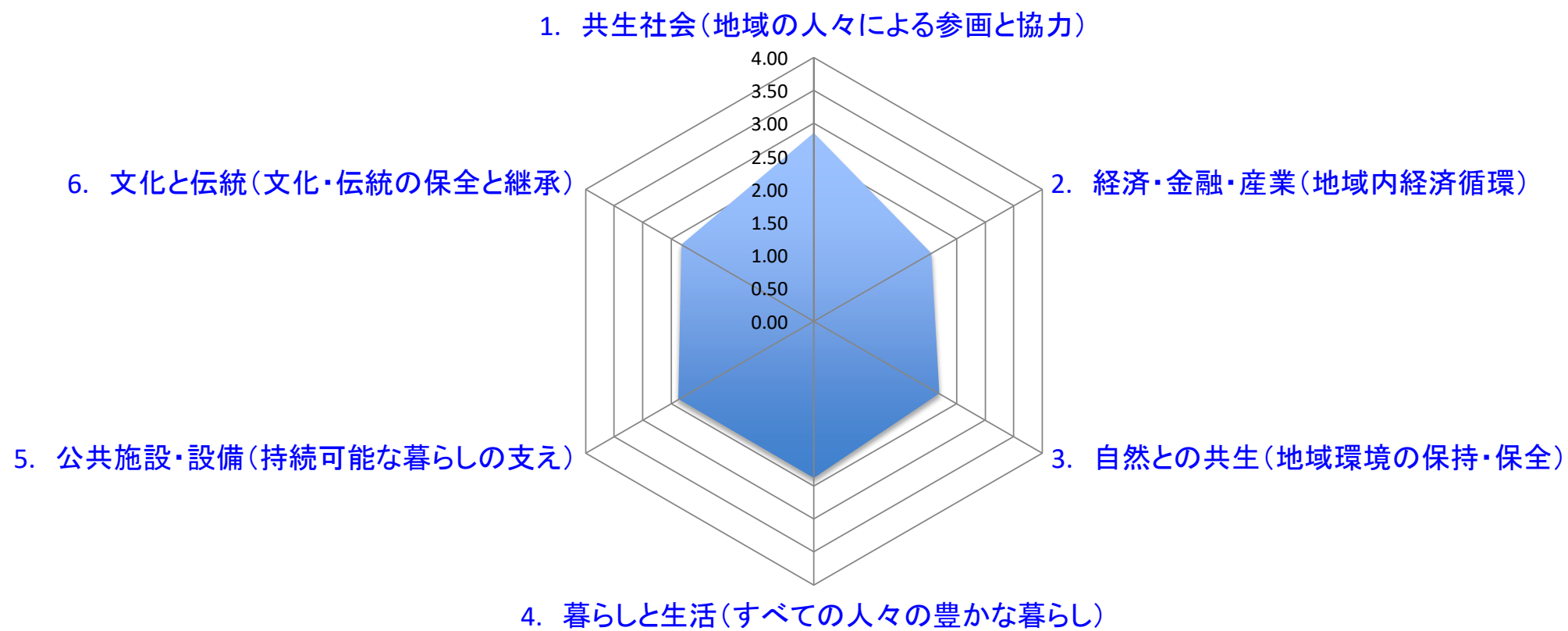


地域の力診断ツール ワークショップ結果報告シート

1. 基礎情報		
地域名	静岡県静岡市駿河区丸子	
実施日時	2016年7月14日 19時～ 20時50分 (110分間)	
実施場所	JA静岡市丸子支店会議室 (静岡市駿河区丸子6-7-4)	
参加人数	(男性)	17
	(女性)	3
	合計	20
参加者平均年齢	40代：1名、50代：2名、60代：6名、70代：9名、80代：1名	
参加者所属団体・職業	認定NPO法人丸子まちづくり協議会	
WS実施責任者・連絡先	氏名	小山弘子様
	所属	静岡県立大学「ふじのくに」みらい共育センター(COC事業)
	役職	地域連携コーディネーター
	E-mail	
	電話番号	
WS実施にあたって掲げた目標・目的	設立五年を経た「丸子まちづくり協議会」のこれまでの活動を振りかえるとともに、地域の方の意見を聞く機会とし、地域の方々の中で情報を共有し今後の地域づくりの方向性を考える場とする。	

2. 質問票 集計結果		
	参加者回答の単純平均スコア 1点～4点 (最高)	備考 (質問数を変更した場合はその旨記載)
1. 共生社会 (地域の人々による参画と協力)	2.85	
2. 経済・金融・産業 (地域内経済循環)	2.06	
3. 自然との共生 (地域環境の保持・保全)	2.20	「Q30持続可能性に配慮した漁業が行われている」は削除
4. 暮らしと生活 (すべての人々の豊かな暮らし)	2.38	「Q45 地域づくりに関わる外部人材 (地域おこし協力隊、集落支援員など) はいますか」は削除
5. 公共施設・設備 (持続可能な暮らしの支え)	2.37	
6. 文化と伝統 (文化・伝統の保全と継承)	2.32	

地域の力診断指標 結果



主観的幸福度の結果	参加者回答の単純平均スコア 1点～4点 (最高)	備考
Q67 現在の生活にたいする満足度	3	
Q68 地域に対する愛着度	3.167	
Q69 地域への誇り	3.294	
Q70 地域に住み続けたいか	3.556	
Q71 子供に住み続けてほしいか	3.167	

Q68-2 (地域に対して) どんなどころに愛着を感じていますか。

「人間性」「人々の絆」「共助のシステム」等、人の良さや人とのつながりをあげる回答が16人中10人(全体の約6割)にみられた。

「自然」「環境」「安心」を挙げる人も5人ずつ(約3割)おられた。
Q69-2 (あなたが暮らす地域の) どんなところに誇りを持っていますか。
16人中6人が人や活動に関する回答であり、誇りの源泉も地域の人々や相互扶助的な人間関係であることが明らかになった。
東海道の宿場町としての歴史や文化に誇りを感じている人も5人(約3割)おられた。
Q72 あなたの考える幸せな地域とはどのような地域ですか。具体的にお書きください。
人とのつながりや住民の自発的な活動をあげる回答がもっとも多く15人中9人(約6割)にのぼった。
キーワードとして「安心」をあげる人が5人(全体の三分之一)おられた。医療や防災・治安等の様々な要素に加え人間的なつながりも含まれた「安心」であるとも考えられる。

3. 診断結果を踏まえた意見交換セッションの結果

「地域の力」としての強みは何でしたか？	「共生社会」の項目が最も平均値が高く、質問としては「地域運営組織の多さ」が最も評価が高かった。「丸子まちづくり協議会」にみられる活発な組織の多さや、祭りや伝統行事への積極的な取り組みが強みとして認識されていると考えられる。
「地域の力」として足りないもの(弱み)は何でしたか？	「経済・金融・産業」の分野の評価が低く、特に地域経済の持続性に関わる後継者不足の問題や、新たなビジネスの醸成等が共通の課題として認識されていた。
地域の抱える問題は何ですか？	農林業の後継者不足や新たなビジネスの醸成等、地域経済の持続性に関わる問題が地域の課題。ワークショップの議論からは、地域の拠点となる公共施設の少なさ、高齢者一人世帯の増加等が課題として挙げられた。
地域の「強み」、「弱み」、「問題」を踏まえて、今後何をすればいいですか？	豊かな人間関係を踏まえた、孤立しがちな高齢者のためのコミュニケーションの場づくり。空き店舗や公民館の活用、あるいは小学校の空き教室の利用など、人口減少ゆえの地域資源を活用した人とのつながりを強める拠点づくりに関する提案が多く出された。
その他、参加者から出た意見についてご自由にお書きください。	<ul style="list-style-type: none"> ・強みである自然や文化・歴史を自分たちがしっかりと理解し、それらを活用して地域の環境を整備する案も挙げられた。 ・耕作放棄地の増加については、家庭菜園や市民農園として利用するアイデアが出された。 ・高齢者世帯の増加やそれに伴う要介護高齢者の孤立の問題に対しては、予防のためのコミュニケーションの場づくりや交通手段の確保の必要性があげられていた。 ・コミュニケーションの場としては、麻雀を通じたふれあうサロンや、道の駅の拡大、まちづくり協議会で運営する居酒屋、空き家を活用した外国人向けゲストハウスなどがあげられた。

4. WSを終えた感想・コメント

地域の力診断ツール・ワークショップを開催してみて、主催者として感じたこと・気づきをご自由にお書きください。また、今後このワークショップの成果・結果を活用する予定があれば教えてください。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の強み・弱みを客観的に見直すことができ、また多くの課題を話し合えたことは良かった。 ・日頃なんとなく考えていることを数値化するのは意義があると感じた。地域の弱みを克服するアイデア出しは面白かった。もっと、ワークショップの手法を取り入れて、企画会議ができれば良いと思った。 ・少人数のグループなので意見が出しやすく、地域への取り組みについての意見が聞けて良かった。高齢化社会への弱みに対して地域で考え、良い方向に持って行けるよう切り開いていく事を信じて活動していきたい。丸子が良くなると信じて立ち向かっていこう。
ワークショップの運営方法について今後の改善点があればお書きください。	アンケートの意味が分からないところがあった。参加者の希望を聞いても良かったと思う。
診断指標について改善点やコメントがあればお書きください。	<p><打ち合わせ、ワークショップで出されたコメント></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地域運営組織」という言葉が難しい。 ・Iターンという言葉は説明が必要。 ・Q39②病氣やけが等の予防に関する取り組み⇒健康長寿への取り組み ・質問が多い

ご記入、ありがとうございました。

送付先 一般財団法人CSOネットワーク office@csonj.org